

長野県知事選挙 8月7日投票

長野県知事選挙が8月7日投票で終わります。金井忠一（かないちゅういち）氏が、共産党県委員会の推薦を受け無所属で立候補しました。

金井氏は1950年上田市に生まれ、1970年から、上田市役所に25年間勤務し、その後上田市議会議員を5期務めました。2016年から、長野県生活と健康を守る会連合会会長を務めています。

金井忠一氏は「国の方ばかり向いた冷たい官僚県政から県民に寄り添う県政をめざしたい」と4年前に続いて2回目の立候補をしました。

ロシアのウクライナ侵攻による物価高騰が県民生活の負担になっているとし、国へ消費



減税を求めることのほか、学校のトイレを洋式に変えたり給食費の無償化を政策に掲げています。

また、事故が相次いでいるリニア中央新幹線の工事について、いったん中止して事業そのものの必要性から検証し直すべきだと訴えています。

読者の声

4年前の知事選

県知事選挙が8月7日にあると聞き4年前に「リニアよりクーラーを」と訴えていた候補を思い出した。

あの時も猛暑が続き児童生徒がぐったりだった。ちょうど県知事選で、学校へのクーラー設置の声が拡がり実現された。

選挙は騒がしいが意見を訴え合うことで日常の課題が浮き彫りなることはいいと思う。特に県の事業には関心が低いので、選挙で色々な事が発信されることを期待している。
(50代男性)

特定健診受診率全国9位

池田町の特定健診受診率がなんと全国926町村のうち9位。6月に厚生労働大臣から表彰を受けたと聞きました。

受診率69%は過去最高の成績です。関係者の方々の働きかけの成果だと思えます。

一方で塩分摂取量が1日10g（男）、9.4g（女）と目標値よりそれぞれ3gも多いとのこと。動脈硬化が進むため要注意だそうです。

うす味に慣れる努力をしたと思います。
(60代女性)

横断歩道前で止まらない車

最近横断歩道前で待っていても、止まらずにスピードをだしたままの車が多くなりました。たとえ忙しくても止まって歩行者が渡るのを待つ余裕を持つてほしいです。
(70代女性)



参院選挙の結果について

7月10日投票された参院選挙でご支持ご協力いただいたファンクラブニュース読者、支持者の皆さんに、深く感謝申し上げます。

「杉尾秀哉」さんの勝利は今後につながる大きな成果

大きな困難を乗り越えて全国的に一本化された野党統一候補の内、勝利できたのが3選挙区にとどまる中で長野県選挙区の勝利は共闘の正しさと希望を全国に発信する結果となりました。

一方、知名度頼りで国会議員の資質に欠ける人物を擁立した



松川西友前で杉尾候補の演説を聞く聴衆

自民党の責任が問われています。

比例選挙は改選議席を下回る3議席に

5議席獲得を目指した比例代表選挙は2議席減で「ただ良介」さんの議席を失うという大変残念な結果となりました。

昨年の衆院選に引き続き反共攻撃や露骨な利益誘導の嵐の中で、議席獲得のチャンスもありながら勝利に結びつけなかった自力不足も痛感しています。

池田町は比例得票率長野県で第2位

長野県選挙区では「杉尾」候補がいくつかの自治体で「松山」候補に競り負ける結果とな

文芸欄 今月は俳句です

夕立に急ぎ会釈の中学生
思い切り頬を叩いて蚊のいずこ
スコールのごとく日本列島走り抜け

みき子
幸代
美ち子



お誘い 2022七夕まつり

主催
いのちと平和のフェスティバル実行委員会

大北地域を中心に「より暮らしやすい未来」を願っている幅広い人たちが「出会い」「つながる」イベントを企画しました。内容などは加藤さん(090-7582-6807)までお問い合わせください。

日時 7月31日(日)
午前9時~12時半
場所 松川村りんりんパーク(すずの音ホール隣)
○入場無料 ○小雨決行

行財政改革推進委員会 第一次・二次答申が出される

池田町の行財政改革推進委員会は、昨年5月発足以来精力的に協議を進めています。この間昨年11月8日に「行政改革に関する第一次答申」が、町長あてに出されました。

- (1) 職員数・人件費の削減、(2) 正規・会計年度任用職員報酬の減額、(3) 課・係の再編、統合など、(4) 早期退職者制度の実施、(5) 業務の合理化・効率化の推進、などきめ細かな内容となっています。

さらに今年1月「第二次答

- (1) 付属機関に関して取り組むべき対策、(2) 農業委員会に対して、(3) 議会に關して取り組むべき対策、① 議員定数を10人削減について検討、② 議員報酬の増額、③ 議会に対する町民の関心向上に一層努める、などとしています。町は答申に対する具体策を、早急に町民に示さなければなりません。

推進委員会は月2回ほど開催されており、7月14日には第24回が行われました。
(中島 牛越邦夫)

コラム 有明

日本共産党は7月15日、党創立100周年を迎えました。この100

年は、日本国民の利益を擁護し、平和と民主主義、自由と平等、社会進歩をめざして、その障害になるものに対しては、それがどんなに強大な権力であろうと、勇気をもって正面から立ち向かってきた歴史です。▼

一つの政党が、100年という年月をへて、生命力を保ち続けていることは、それ自体、重要な意義をもつ出来事だと思います。いま、マスコミなどが党員の高齢化や支持者の減少を指摘し「共産党は時代遅れ」との声もありますが、戦前、日本共産党は非法のもとにおかれ「国賊」「非国民」などと迫害を受けながら

も「侵略戦争反対」「国民主権」の旗を掲げて頑張り抜いてきました。▼今後、若い人たちが必ずこの歴史を引き継いで行ってくれると信じています。投票日の夜、初めて投票権を得た孫から「日本共産党に入れてきたよ」とメールがあり、この思いを強くしました。

部内資料

発行責任者 太田 勅 (62-5727)
議員連絡先 薄井 孝彦 (62-5093)
服部 久子 (62-4357)
山本 久子 (61-1066)
編集責任者

249号
2022年7月

日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな〜れ